



上 笹下地区

笹下城を守った左右手川



大岡川を遡り日野川と分岐すると、その先の上流は通称・笹下川と呼ばれる。笹下釜利谷道路（笹釜道路）と旧金沢（かなざわ）道に挟まれたエリアを流れる川で、田中町あたりでは両サイドから樹木が覆いかぶさり、川面が見えにくくなるが、ここに左右手川が流れ込んでいる。

左右手と書いて「そうで」と読ませるが、もとは「外手」と書いて「そとで」（土手の外の意味）だったのではないだろうか。それが訛って「そうで」に変化していったと思われる。

かつて、この一帯から成就院方面にかけて笹下城があった。北条早雲に仕えていた間宮氏が、里見軍の侵入を防ぐため、玉縄城の前進基地として構えた山城である。

福祉の美味しい情報

梅の木坂テラス



ここは「社会福祉法人みどりのその」が運営する就労継続支援B型事業所。温かみのあるログハウス風の店内にはピアノの自動演奏が流れ、広々とした空間に穏やかな雰囲気を作り出している。窓際に置かれた暖炉では薪が燃えて真冬でも暖かく、名物のソフトクリームを食べるのにちょうどいい。今回食べたのはホットドッグ（500円）。磯子区杉田9-1-16 ☎045-374-5578



左右手川はその城を守る堀の役目を担っていたのだろう。合流点から遡ると錦衣橋で県道22号線をくぐり、川は根岸線方面へ向かう。アルス洋光台というマンションに入る橋から先が暗渠だ。その上部は「田中町子供の遊び場」として利用されている。

この橋が暗渠の出入り口で、その先は川の名残が全く見られない。しかし、昭和30年代の地図を見ると、峰から湧き出した水が、現在の洋光台を通って笹下川に流れ込んでいたことが分かる。詳しくはWEBで。

文化でつなぐ 地域の輪

洋光台の開発で消えた 笹下川の支流



に昔は川が流れていたと思わせる風景が続く。車が通行できない非常に分かりやすい暗渠なのだ。

間宮氏ゆかりの若宮御靈神社の脇を進み再び車道を横切って細い道をすすむ。暗渠らしさは薄れるが、昭和30年代の地図で確認するとこの道は川筋そのままなのだ。

ここから先は洋光台の開発によって、川の痕跡はまったく消えてしまうのだが、昔の地図で判断すると、源流は峰の辺りであることが分かる。詳しくはWEBで。



福祉の美味しい情報

つばさ

ここは製菓・清掃・下請け作業などを行っている就労継続B型の通所事業所。なので、お店があるわけではないが、事業所で製造したお菓子を購入することができる。小袋入りの焼き菓子はどれも一袋150円で、おやつにピッタリ。事業所は暗渠のすぐ近くにあるので、暗渠探索のお供にいかが。写真は右上から時計回りにブラウニー、スノーボール、フロランタン、オレンジクッキー。磯子区洋光台1-13-10 ☎045-833-1620



岡村地区

磯子で一番長い禅馬川



「磯子・海の見える公園」付近に注ぎ込む河口から禅馬川を遡ってみよう。根岸線をくぐる辺りまでは開渠で、その先はしばらく緑道が続く。いかにも暗渠という雰囲気だ。16号線を越えると、ストリートビューにも映らない細い路地があり、こちらも暗渠らしさが漂っている。

やがて道は広くなり左側に腰越プールが現れる。「プールの傍に暗渠あり」を再確認できる光景だ。道なりに歩いていくと、四間道路を横切り天神道路に突き当たるので左折。

この先が禅馬川の暗渠探索で最も嬉しい所である。約600m続く道は車が入ってこない歩行者・自転車道なのだ。道の両側の家は少し高い所にあるため、暗渠道にはかつての護岸上部が続く。まるで川面を歩いているような錯覚に襲われる。

歩行者・自転車道が終わったところで車道に出るので左折し、金剛院方面へ向かう。この辺りから再び道は狭くなり、やがて右側が土手という「いかにも川らしい」雰囲気が漂ってくる。さらに進むと通行車両の多い笹堀の交差点に出るが、道路を渡るとその先にも川の痕跡が現れる。それをたどって行くと、到着地は久良岐公園だ。この辺が禅馬川の源流（久良岐ルート）である。

天神下から遡る汐見台ルートもあるが、詳しくはWEBで。

福祉の美味しい情報

ろばの店

ここはNPOレインボータラント舎が運営する就労継続支援B型事業所。フェルト玉ストラップ「いもぴい」は、神奈川県保健福祉局主催の第1回からと輝くコンテスト優秀賞を受賞した可愛い製品である。横浜市磯子区内の施設・作業所が協力し合い、毎月第3水・木曜日に磯子区役所1階ロビーにて販売会を開催している。クッキー、マフィンなどの製菓も。磯子区岡村4-25-39 ☎045-750-0091

